



自然災害、
ウイルス、
動物、
今なお人類には
多くの脅威があるが、



しかし人類は
研究することで、
多くのものを乗り越えてきた。



雪の多い北海道と、
台風の多い沖縄とでは、
自然に対する研究から、



家屋の姿も
大きく異なっている。



研究こそが、
多くの知識を生み、
多くの脅威を乗り越え、
物質的に人類を進歩させた。



もちろん
人は心の生き物だから、
精神・心も大切だ。



だから武士道を歩む
ことによって
得られる侍精神、

大和心は欠かせない。



しかし研究、
研究によって得られる
知識と情報、

これは日本を

金融植民地から解放して、

日本人を奴隷解放する上でも、



日本を中国共産党から、
守り抜き、

これ以上、日本人が

奴隷にならないためにも、

けっして欠かせない。

中国の戦争思想

『孫子の兵法』には、

こんな言葉がある。

彼れを知りて己を知れば、

百戦して殆^{あや}うからず。

彼れを知らずして己を知れば、
いっしょういっぷふ
一勝一負す。

彼れを知らず己を知らざれば、
戦う毎にごと必ず殆^{あや}うし。

また儒教の孔子は言う。

之を知るを之を知ると為し、

知らざるを知らずと為せ。

是れ知るなり。

自分が知っていることと、
知らないことを
正直に知ることが、
真に「知る」
ということである。

だから今回は、
「知的正直さ」という
観点から、

日本を植民地支配する
金融エリートたちの姿を、
明らかにしたい。



すでに述べたように、
日本は先の大戦に敗れて以来、
金融的には植民地であり、



私たちが日本人は
キャッシュユデイスペンサーと
化した金融奴隷なわけだが、



日本を金融支配している
超エリートたちというのは、
実は国家を凌駕する
財力と権力を持っている。

たとえばケネディ元大統領は、
ダラスにて暗殺された。



未だ犯人不明の未解決事件だ。

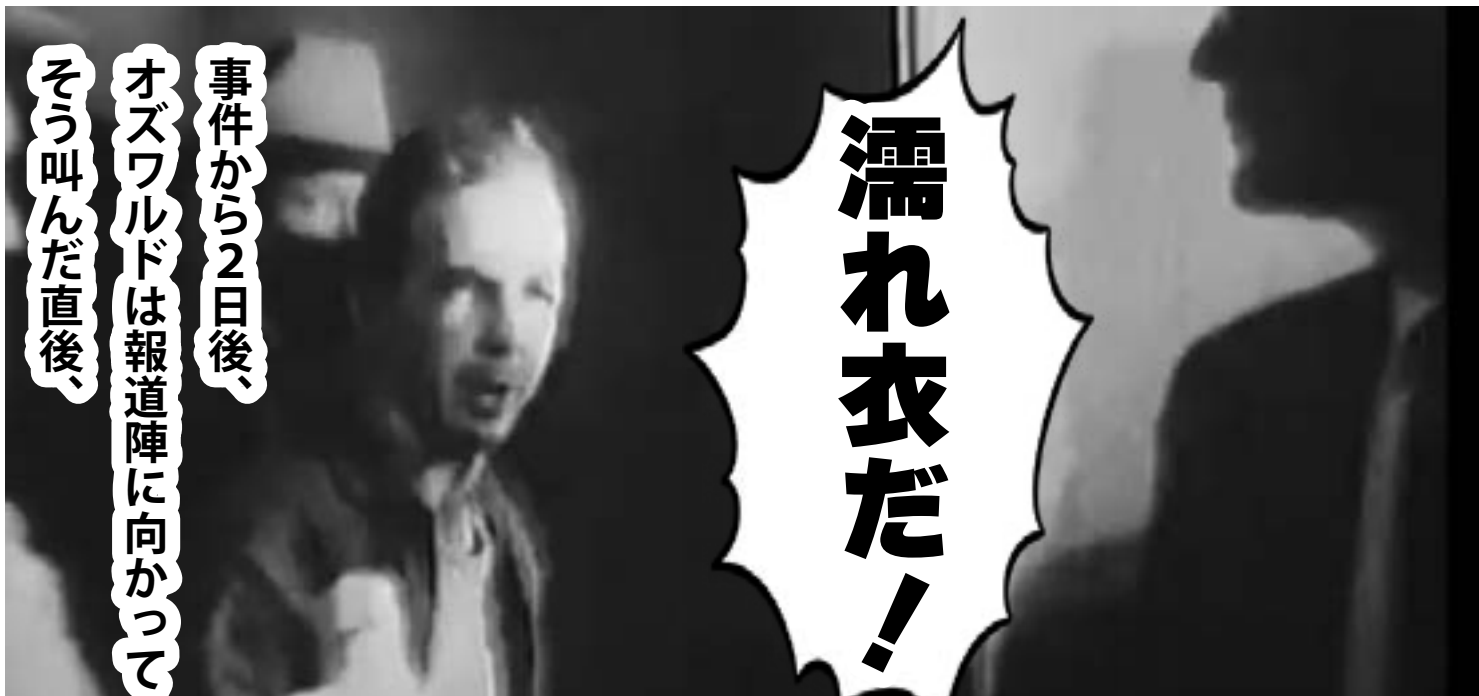
この事件は、

リーハヴェイ・オズワルドの



単独犯と言われている。





濡れ衣だ！

事件から2日後、
オズワルドは報道陣に向かって
そう叫んだ直後、




移送される警察署の中で、
ジャック・ルビーという男に

DALLAS
POLICE
36398
11 24 63

テレビカメラの前で、
銃で撃たれて、
あっけなく殺された。



事件の真相が
迷宮入りしていく中、
そのジャック・ルビーも、
あっけなく獄死する。



ケネディが亡くなったことで、
副大統領から大統領になった
ジョンソン大統領は言い切る。

オズワルドがたった一人で、
殺害現場の近くにある
ビルの6Fから放った

3発の銃弾が、
ケネディ大統領を殺めた。



アメリカ政府の調査委員会は
そのように発表した。

しかし政府の発表通りに
銃弾の弾道を描くと、
曲がってしまうために、
「マジック・バレット」(魔法の銃弾)
と呼ばれている。



だからこういった
推測ができるわけだ。

実は単独犯ではなくて、
他にも見つかっていない、
発表されていない、
弾丸がまだあって、
実は複数犯による
組織的な犯行なのでは？

シャンパンタワー👉



実は「大統領暗殺事件」から、
わずか数年のうちに、
事件と関わりがあった人物たちが、

次々と自殺、事故、他殺によって、
16人も死んでいくという、
前代未聞の怪奇現象が生じた。

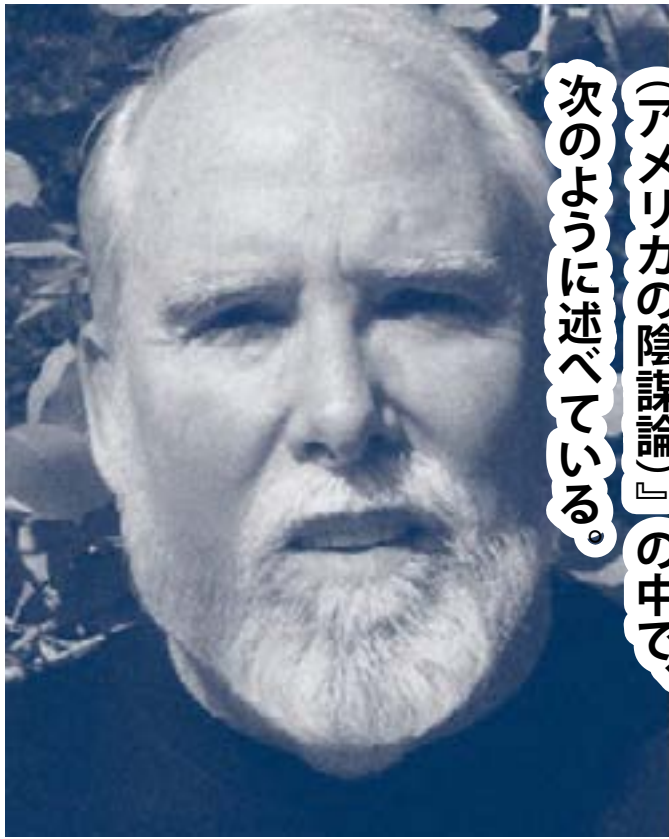


この奇妙な出来事に対して、
当然ながらアメリカ国民も、
疑問を持ち始めた。



すると政府の公式発表に、
「なにか、おかしい？」
と疑問を持つ人たちが、

「陰謀論者」という
レツテルを貼られて、
バカあつかいされた。



2011年に記した書物
『Conspiracy Theory in America
(アメリカの陰謀論)』の中で、
次のように述べている。



こうした一連の流れに対して、
アメリカの歴史学者の
ランス・デヘイヴンスミスは、



米国人の多くは、
『陰謀論』というレッテルが、
1967年に始められた
中央情報局（CIA）の
プロパガンダ計画によって、

侮蔑的な言葉として
広められたと知ったら、
ショックを受けるだろう。

すでに述べたように、
人類は研究、
それによる知識と情報によって、



多くの脅威を乗り越え、
物質的に成長してきた。

しかし自分に知らない
知識や情報に対して、
正直に「知らない」と
認めることができない、
人間の弱さにつけこんで、





仲間同士で、

お互いに

「陰謀を信じる愚か者」

「情報に弱い愚か者」

と罵らせてきたのだ。



その蛇のような狡猾な

分断手法は、

実は現代において、

アメリカや日本のみならず、

世界中で続いている。



彼らは自分たちが、
人類の脅威であることを、

気づかせないために、
狡猾な罠を張っているのだ。



脅威に気がつかなければ、
その脅威に
対処する気にもならない。



だから私も言うのだ。
「鳩の如く素直で、
蛇の如く賢くあれ」と

流しそうめん



では、
なぜケネディ大統領は
殺されたのか？



「ベトナム戦争に反対した、」



「宇宙人情報を開示しようとした、」



いろいろ言われているが、
ケネディは1963年6月4日、

「大統領令11110」
というものを発令して、



「政府紙幣」
5ドル札を発行した。



すると彼は、
わずか5ヶ月後に暗殺され、



ケネディが発行した「政府紙幣」も、
回収されていった。

すでに述べたように、

「世界の基軸通貨」とも呼ばれる



ドルを発行している『FRB』は、
100%民間の銀行である。

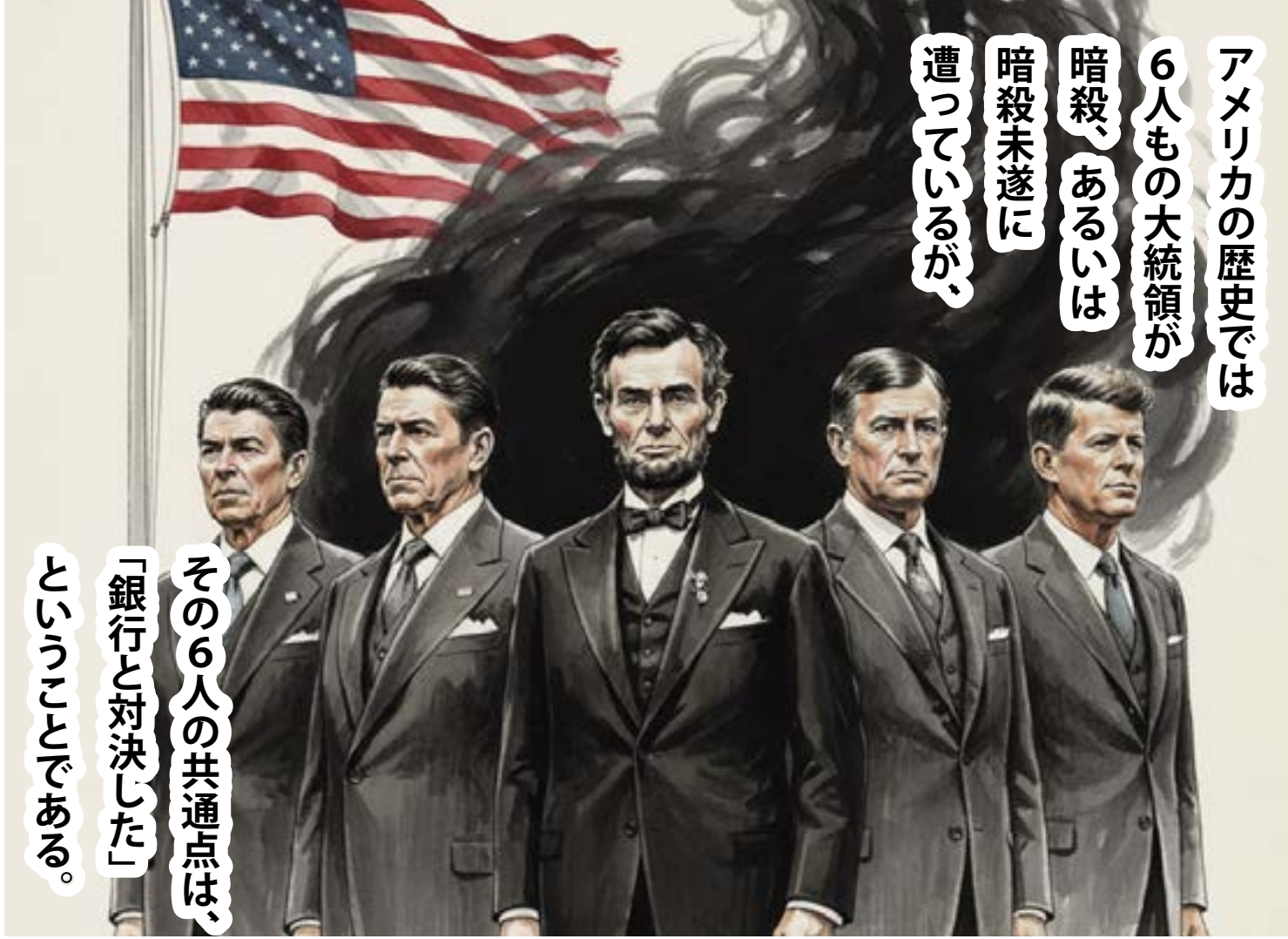
アメリカの歴史では

6人もの大統領が

暗殺、あるいは

暗殺未遂に

遭っているが、



その6人の共通点は、
「銀行と対決した」
という点である。



安倍首相も暗殺されたが、
戦前の混乱する
日本ならまだしも、

戦後の日本では、
任期中に暗殺された
首相は一人もない。



6人の大統領が
任期中に暗殺に遭う、

これだけでも、
どれだけアメリカが
狂っているかが分かる。



しかし
「世界最大の覇権国
アメリカが狂っている」、

それは
「世界が狂っている」
ということを意味する。

悲しきかなアメリカは、
本来、人間ならば
「恥」と呼ぶことを、

「正義」と呼び変えることを、
ヤツラによって
行わされてきたのだ。



もちろん「戦争」というものは、
国家や民族や宗教、
様々な違いから軋轢が生じ、
起こるものではあるが、

しかしその軋轢を
意図的に煽って、
儲けている者たちがいるのだ。





その象徴こそ軍産複合体である。



アイゼンハワー大統領は、
退任演説でこう述べた。

我々は、政府に対して、
軍産複合体による
不当な影響力を
排除しなければならぬ。

誤って与えられた
権力がもたらす悲劇は
存在し続ける。



「軍産複合体」とは、
戦争で利益を得ている

軍需産業を始めとする
存在の総称のことだ。



ハッキリ言っておくが、

我々人間のことを

まるで動物のように捉えて、

戦争で利益を得ている者が、

たしかにこの地球には

存在している。



たとえば1991年に

イラクがクウェートに侵攻した時、

アメリカ国民は

この中東の紛争に

介入することに反対した。

するとどこからともなく、「ナイラ」という少女が現れて、涙ながらに語った。

クウェートに侵攻してきたイラク兵は武器を持たない市民にまで銃を乱射し、


病院に侵入して赤ん坊を床に……。

こうしてあっけなく、世界中の人々が、

「イラクのフセインは、ナチスのヒトラーのような狂った男だ」と騙された。




いつしか世論は「戦争賛成」に変わり、湾岸戦争が始まった。



たしかにナイラは、
クウェート人女性だが、
ただの一度もクウェートには
行ったことはなく、

オイルマネーで
アメリカで優雅に暮らす
スーパーセレブであったことが、
後の調べで明らかになった。



イスラム女性に必須な
スカーフさえしていないのに、
世界中が簡単に騙されて、

湾岸戦争では
2万から3万5千もの
人間が命を落とした。



しかしその一方で、
軍需産業の利益は
湾岸戦争をはさんだ
わずか二年だけで、

80億ドルから
400億ドル(4兆円)
に跳ね上がった。



このように軍産複合体は、
「平和」ではなく、
「戦争」こそ最大の利益とする。



真に平和を願うならば、
こうした「軍産複合体」、
「世論誘導」について、
研究しなければならない。



そしてその奥に存在している
「金融エリート」の脅威も研究して、
乗り越えなければならぬのだ。

いや、むしろ
我々は「平和」の中でこそ、
幸せに生きられるのだから、



金融エリートを
人類の幸福と平和のために、
研究しなければならない。





日本のことのみを
考えるのではなく、
天下国家を考える、
それが武士道、

だからこれは、
地球人類の
リベンジであり、



我々は、
ワールド・リベンジャーに
ならねばならない。

アメリカで

初めて暗殺未遂に遭った

第7代大統領

アンドリュー・ジャクソンは、

次のように述べた。

銀行は私を

殺したいだろうが、

私こそ銀行を殺す。



お前たちは
腹黒い盗人の巣窟だ。
私たちは
お前たちを一掃する。

永遠なる神の力によって、
お前たちを必ず一掃する。



第3代アメリカ大統領
トーマス・ジェファソン
も、こう言っていた。

銀行は軍隊よりも
危険である。



もしも民間銀行に
通貨発行を奪われたら、



すでに述べたように、
実際にアメリカには、
子どものホームレスが
たくさんいる。

我々の子孫は
ホームレスになるまで
銀行に利益を吸い上げ
られてしまうだろう。



経営者を除いて、
多くの人が、
銀行に借金する時
それはいつか？
家を買う時である。

つまり
「通貨発行権を握られる」
ということ、
人間が生きていく上で大切な、
衣食住の「住」の部分を、
握られていることにも等しい。

妻の真澄です！
妻以外の女性とこんなことをしたら
確実に殺される！



だから私たちは、
先の大戦に敗れて以来、
金融奴隷なのだ。

1812年、

当時のウィルソン大統領は

議員の多くが

クリスマス休暇を

とっている隙について、

法案を通過させた。



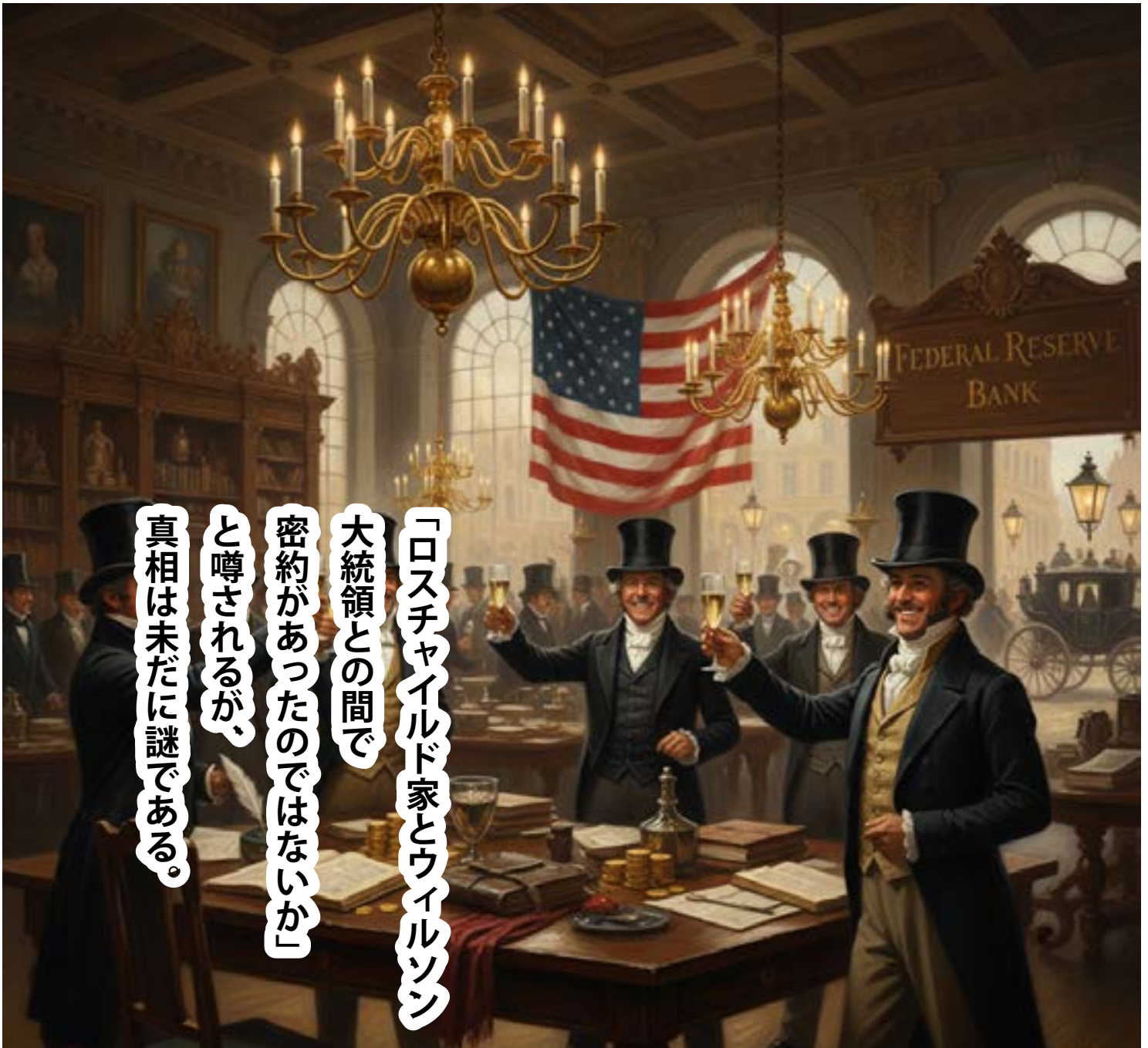
FEDERAL RESERVE BANK

「ロスチャイルド家とウィルソン
大統領との間で

密約があったのではないか」

と噂されるが、

真相は未だに謎である。



一説には、
ウッドロー・ウィルソンは、
晩年に『FRB』の設立に
加担したことを後悔して、
こう言い残したという。

私はうっかりして、
自国を滅亡させてしまった。
私たちのすべての活動は、
ほんのわずかな人たちの
手の中にある。

レーガン大統領は、
なぜ「通貨発行権」が
アメリカ政府ではなく、
『FRB』にあるのか、
それが気になっていた。

大統領でさえ、
「金融の仕組み」を
理解していないわけだ。

レーガン大統領と
『FRB』議長ポール・ボルカー
が昼食を取りながら面会して、
開口一番、

「FRBはなぜ必要なのか？」
という質問を、
私はよく受けるんだが



ボルカーの次に
『FRB』議長になった
アラン・グリーンズパンは、
このやりとりを見ていて、
彼は自身の著書の中で、
こう記している。

政治家はFRBに
触れるべきではない。




その後、
「レーガン大統領
銃撃暗殺未遂事件」
が起きた。




グリーンズパンは、
取材でこう答えた。

『FRB』は独立機関だから
我々が行うことを、
覆せる政府機関は存在しない。




すでに紹介したように、
ヘンリー・フォードが、
次のように述べた理由も
徐々に見えてくる。

この国（アメリカ）
の人々の銀行や金融への
不理解はもうたくさんだ。



もし金融の仕組みを
人々が理解したら、

明日の朝までに
革命が起こるだろう。



そしてそれは、
日本もまったく同じだ。



日本に夜明けをもたらし、
誰もが笑って過ごせる
そんな時代を築きたいなら、

多少は
「お金の仕組み」を、
理解しなければならぬ。



ユーロを発行している『ECB』、



円を発行している『日本銀行』、



ドルを発行している『FRB』、



これらの通貨の発行権を持つ
中央銀行の上に君臨して、
世界中のお金の
蛇口を握っているのが、



スイスのバーゼルにある
『BIC(国際決済銀行)』である。

この現代のバベルの塔、
『BIS』も、
スイス政府や国連とも、
まったく関係のなく、
スイス政府でも入れず、

1790年、
ロスチャイルド家の
初代マイヤー・アムシェルは
こう言述べた。

一度も会計監査を
受けたことがなく、
どこにも収支報告書を
出す必要もない、
超巨大民間会社である。

私に一国の通貨の
発行権と管理権を与えよ。
そうすれば、
誰がどんな法律を作ろうと、
そんなことはどうでも良い。

1790年、
ロスチャイルド家の
初代マイヤー・アムシェルは
そう言述べていたそうだが、
彼らは、
それを世界規模で実現したのだ。

金融エリートたちが、
いかに大きな力を
持っているのか、
それを示すこんな話がある。



自称ユダヤ人の中で初めて
イギリス首相になったのは
ベンジャミン・ディズレーリだ。

1875年11月14日の夕方、
ディズレーリは、



自らを「ユダヤ人」と語っている
ロスチャイルド家の屋敷で、
ライオネルと夕食をしていた。



その夕食の席に、
召使が一通の電報を
持って来た。




その内容は、
「エジプト政府が
『スエズ運河』の株を
売り出そうとしている」
という極秘情報だった。




エジプト政府が泣く泣く手放し、
フランス政府も購入出来ない、
『スエズ運河』の購入を、

当時、世界一の覇権国家であった
イギリスの肩代わりをして支払った、
それが金融エリートの中心、
ロスチャイルド一族である。



第一次世界大戦中の1917年、
ロスチャイルド一族は、
イギリスに戦費の支援を
行うその代わりに、



イギリスの外相バルフォアに、
国を持たないユダヤ人たちが
パレスチナに移住して、

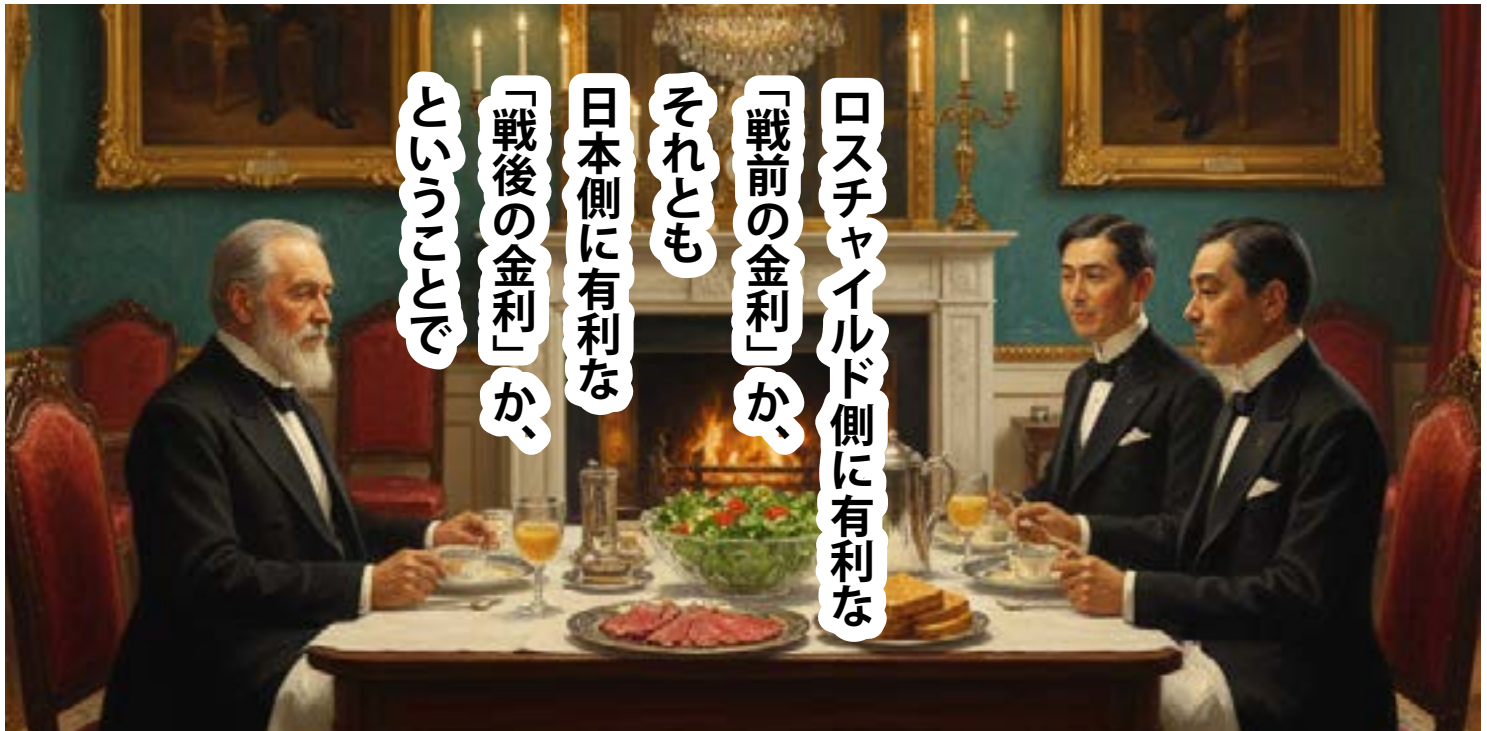
イスラエル建国を承認する
「バルフォア宣言」
を行わせている。

元総理大臣の福田赳夫は、
書籍の中で、
日本も「日露戦争」の際、
金融エリートたちから
お金を借りて、



返済する件について、
『回顧九十年』という書籍で
明かしている。

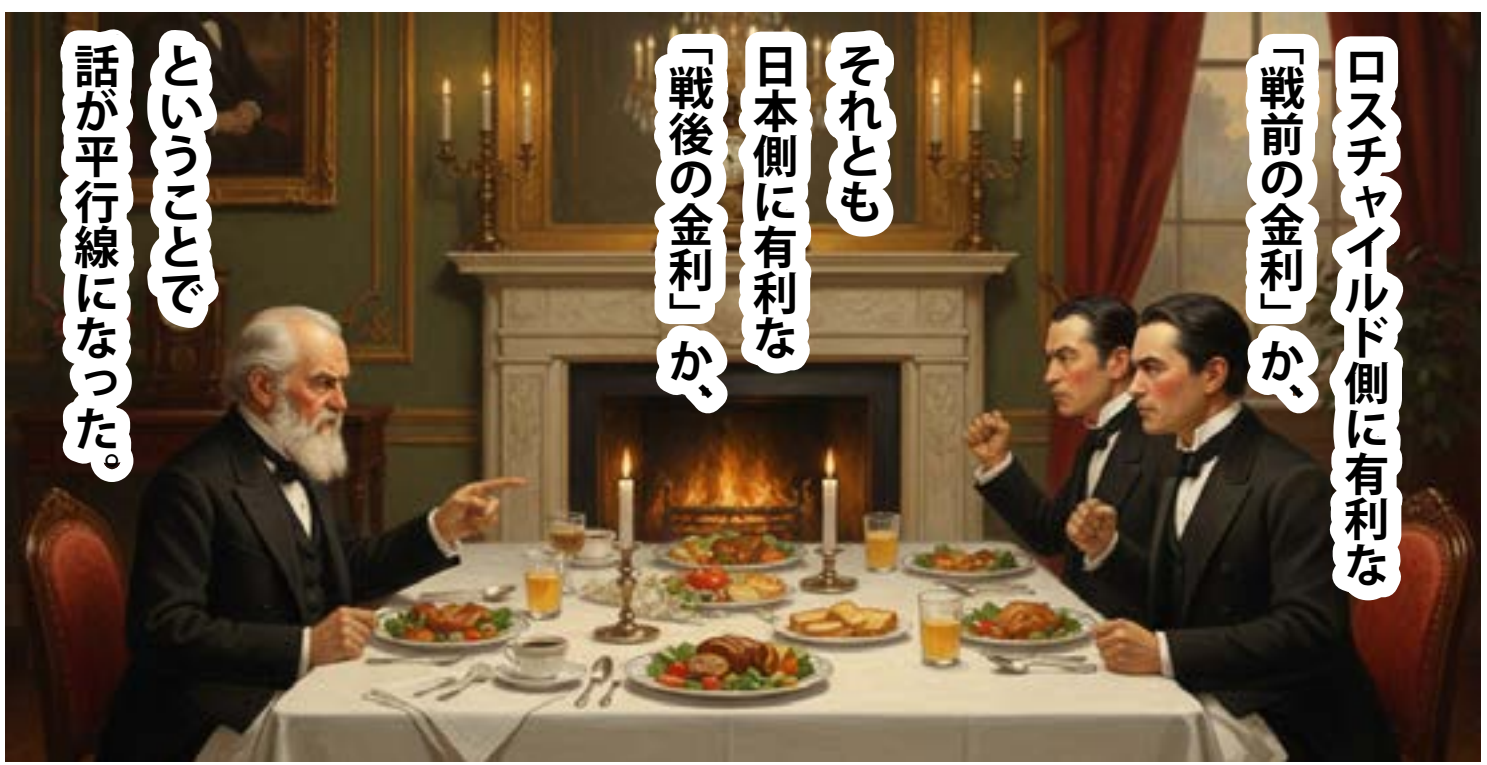
ロスチャイルド側に有利な
「戦前の金利」か、
それとも
日本側に有利な
「戦後の金利」か、
ということだ



ロスチャイルド側に有利な
「戦前の金利」か、

それとも
日本側に有利な
「戦後の金利」か、

ということだ
話が平行線になった。





戦争によって
インフレになり、


お金の価値が
変わっていたからだ。



日本も必死に
交渉したという。




ロスチャイルドが
机の上のベルを鳴らすと、
屈強な男たちが
ドカドカと入ってきた。

A painting depicting a group of soldiers in a grand, ornate room. They are dressed in dark uniforms with bayoneted rifles. In the background, a large fireplace with a fire burning inside is visible. The room has high ceilings, chandeliers, and framed pictures on the walls.


福田元総理は書籍の中で、
こう記している。

再びこの部屋を
出ることが出来るかな

A painting showing two men in a study. On the left, an older man with a white mustache, wearing a dark suit and a top hat, sits at a desk writing with a quill pen. On the right, a younger man in a dark suit stands with his hands clasped, looking down at the desk. A globe is on the desk between them.

国家にお金を貸すことも、
普通の常識では
考えられないが、

返済に際して、
国家を脅すことも、
普通は考えられない、

A stylized illustration of the Earth from space. A large blue pipe is positioned over the globe, pouring a thick stream of various banknotes (including US dollars, Japanese yen, and Euro) down onto the planet. The money is falling like rain, and some hands are visible at the bottom reaching up towards the falling bills.

それがお金の蛇口を握る、
金融エリートという存在なのだ。

ディズレーリは

こう述べたとされている。

世界は舞台裏を知らない
人には、想像もつかない
人々によって支配されている。

では、世界の舞台裏にいるのは、
果たして何者なのか？



それが

「アカシック・レコード」

に触れたヨハネが、

『新約聖書』の「黙示録」に記した

「ユダヤ人を自称する悪魔教徒」

である。



実はアメリカには、

多くのサタニストがいる。

その中でも
ジヨン・ラミレスは、
今ではクリスチャンに
改宗しているが、



彼は元々、
悪魔教の教会に通い、
悪魔教徒の司祭になるために
訓練を受けた人物である。

私は魔術の世界に
リクルートされて、
3番目の高祭司として、
25年間、
悪魔に仕えていました。



また元FBI捜査官
テッド・ガンダーソンも、

凶悪事件を捜査しているうちに、
悪魔崇拝組織に出会った。



悪魔崇拝主義者は、
現在の米国に
約300万人
いると思います。

アメリカ政府は
悪魔崇拝主義を
本当に宗教として
認知しています。

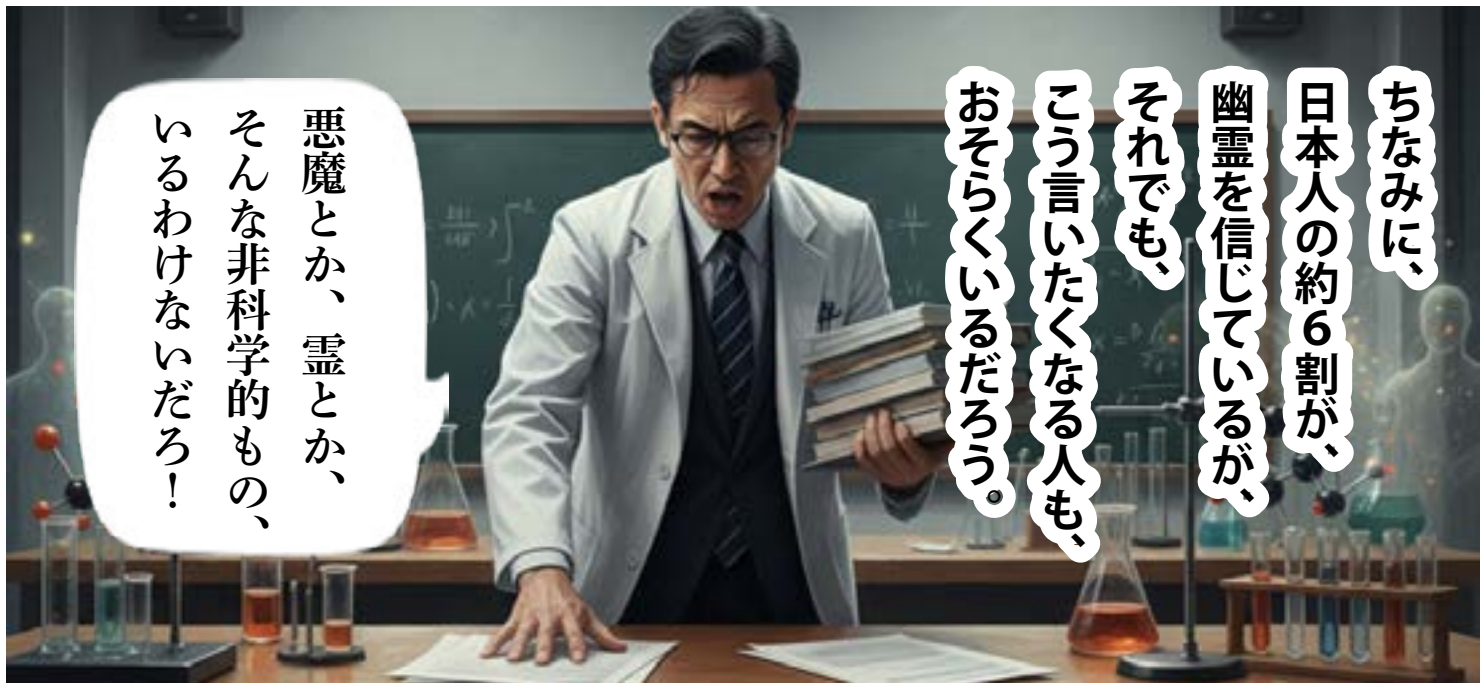


世界には悪魔教徒が
現実に存在しており、



しかも
「自分は悪魔と語った」
と主張する者もかなりいる。





ちなみに、

日本人の約6割が、

幽霊を信じているが、

それでも、

こう言いたくなる人も、

おそらくいるだろう。

悪魔とか、霊とか、
そんな非科学的もの、
いるわけないだろ！



科学的なアプローチによって、
霊の存在を証明しようと
試みている人は大勢いる。



これは、
「キルリアン写真」
と呼ばれている。



天才科学者

ニコラ・テスラは

生体からのコロナ放電の像が
得られる事を発見した。



すべてのカラスが、
黒くないことを

証明するためには、

白いカラスを

たった一羽、

見つければ良いが、



まだ完全なる

霊の科学的

存在証明はできていない。



世界中にある。



認めざるを得ない事例は、



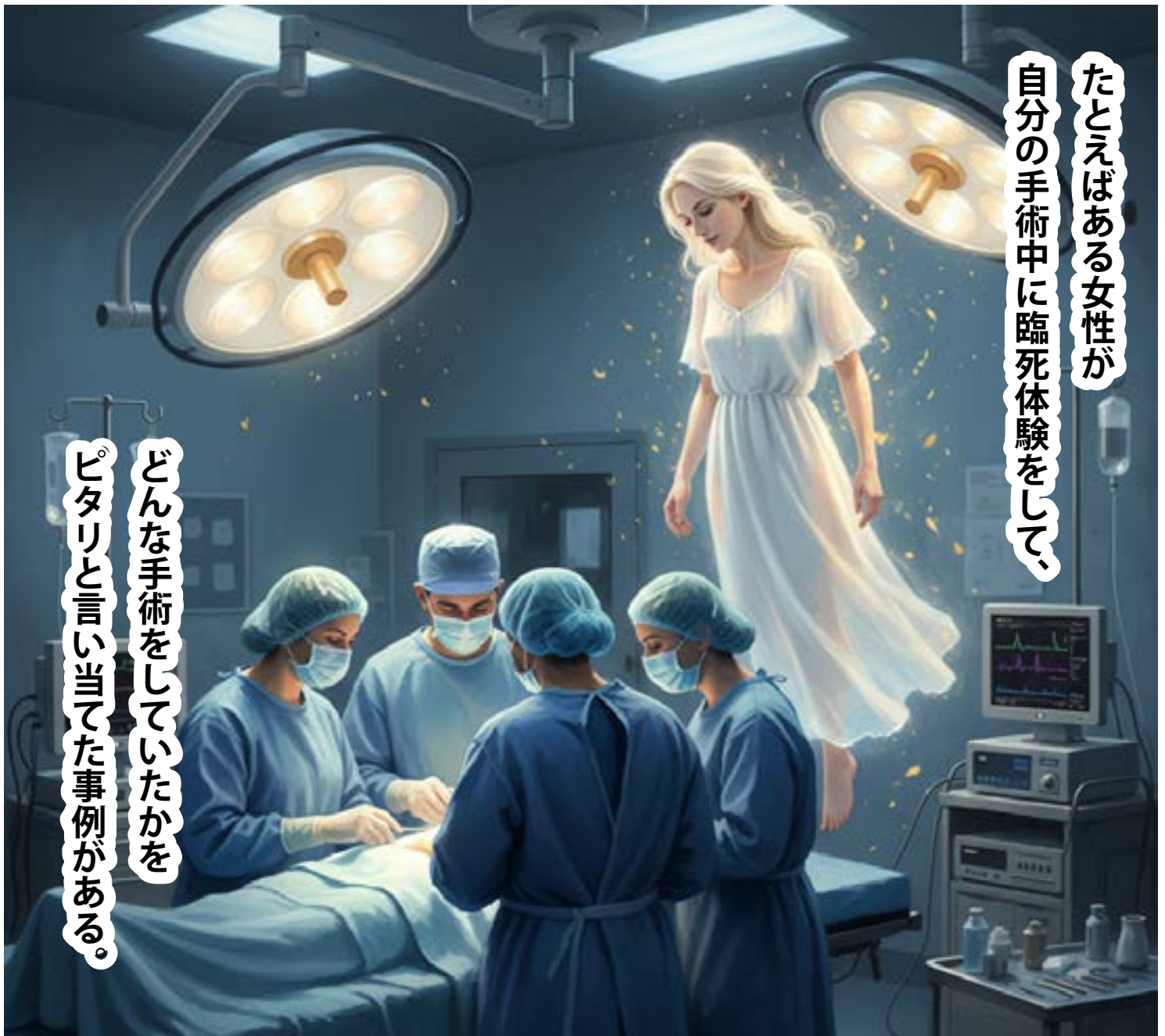
しかし霊の存在を、

その代表的な
ものの一つが臨死体験だ。



臨死体験とは、
死に瀕した人が、
生還する神秘現象のことである。





たとえばある女性が
自分の手術中に臨死体験をして、

どんな手術をしていたかを
ピタリと言い当てた事例がある。



当たっている・・・。
そ、そんなバカな！

先生って意外に
男前なんです♥



しかもその女性は
先天性の全盲であった。



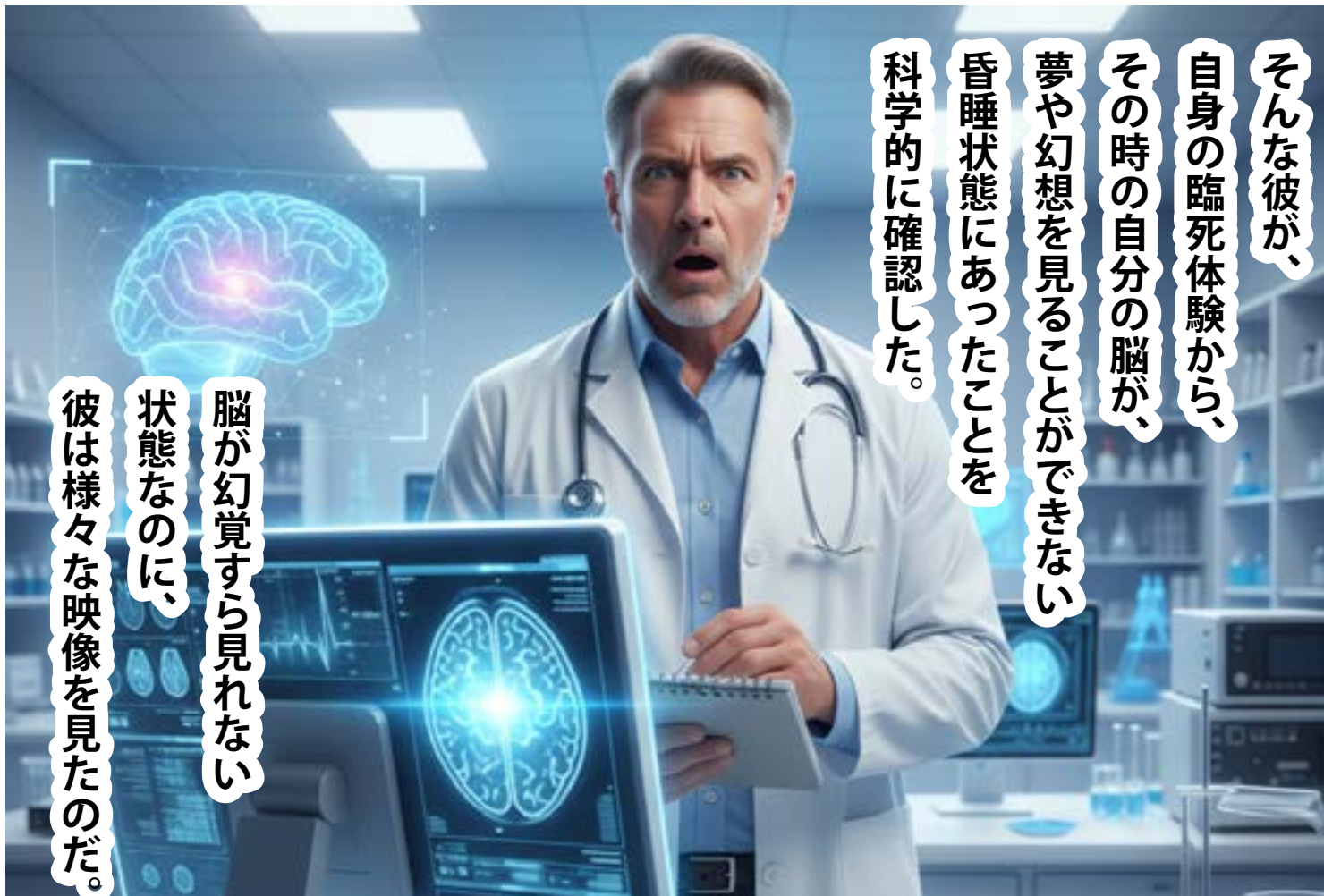
臨死体験の中でも
特に興味深い事例は、

やはり
「エベン・アレグザンダー」
医師の臨死体験だ。



なぜなら彼は
脳科学の分野において、
世界的権威の医師であり、

しかも彼自身、
「霊なんて存在しない」
と考える
唯物論者だったからだ。



そんな彼が、
自身の臨死体験から、
その時の自分の脳が、
夢や幻想を見る事ができない
昏睡状態にあったことを
科学的に確認した。

脳が幻覚すら見れない
状態なのに、
彼は様々な映像を見たのだ。



また臨死体験の中で彼は、
見知らぬ女性に出会って、
こう言われたという。

貴方は多くの人から
愛されています。
お借り頂いたほうが
良いでしょう。



その後、彼は、
実は自分には

生き別れた妹がいて、

この女性はあの時の！

すでに彼女が、
十一年前に
若くして亡くなって
いたことを知る。



その後、彼は世界中で
講演を続けている。

霊は確実に存在し、
肉体の死後にも生命は続く。

私はこれが分かったことで、
より生きる意味を理解できた。

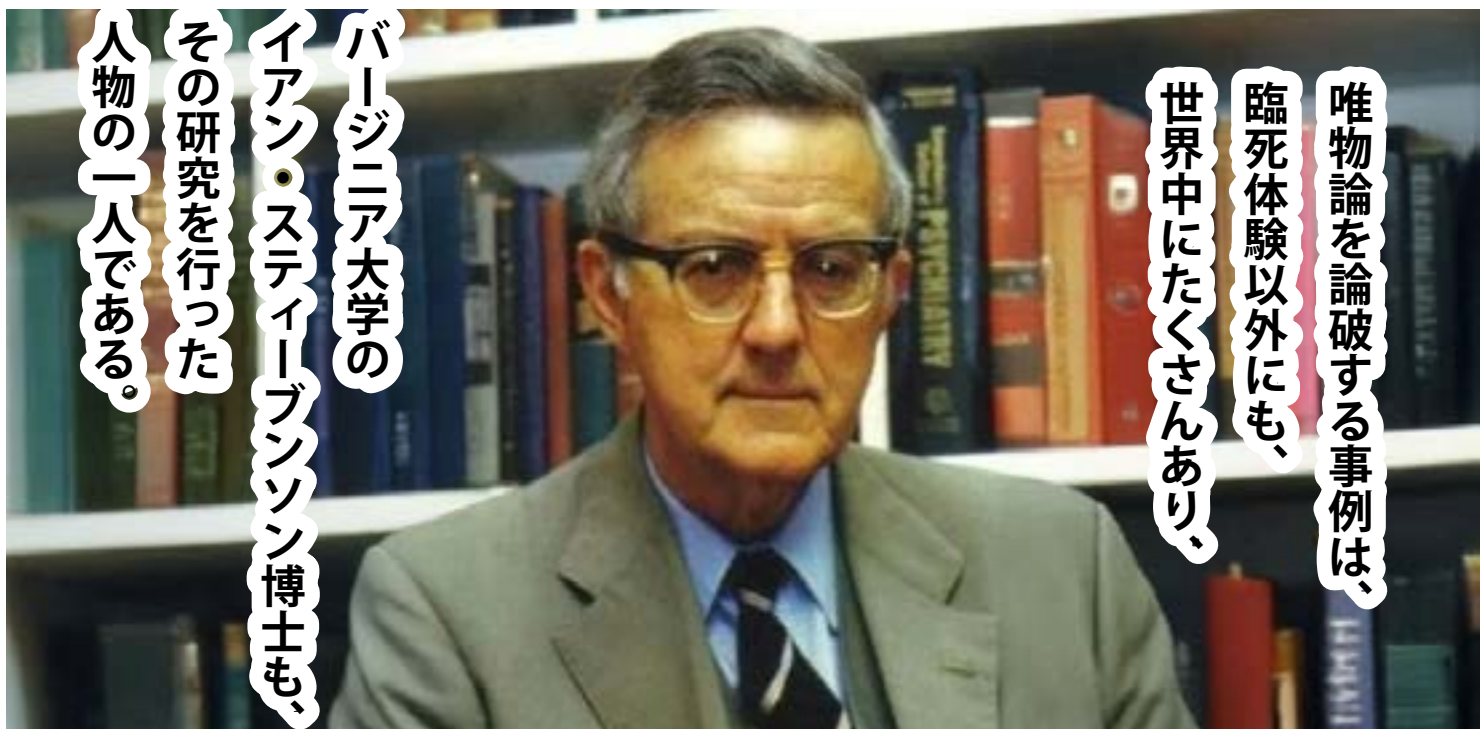


「生きる意味」を知る、
それもまた武士道。



「物しか存在しない」、
「霊など無い」、

「死んだら灰になるだけ」
という考え方を
「唯物論」と言っが、



唯物論を論破する事例は、
臨死体験以外にも、
世界中にたくさんあり、

バージニア大学の
イアン・ステイブソン博士も、
その研究を行った
人物の一人である。



彼は熱意と信念で、
前世の記憶を語る
二千例もの記録を
取った人物である。



たとえばスリランカの少年チャトラ。

僕は事故にあって亡くなったんだ。

同じ村の青年だった



亡くなった青年の職業や家族構成、死亡時の状況などを詳細に語り、

実際に該当する人物が

存在していたことも確認された。



しかも少年の体には亡くなった青年の傷跡と酷似した先天的なアザがあった。

前世を語る研究では

こんな話もある。

シャンティ・デヴィ (5歳・インド)

私はムトラって
街に住んでいたの。
夫と子どももいたわ。

でも出産したあと
亡くなったの。



最初、周囲の大人は
誰も信じなかった。





しかし何度も同じ内容を

話すために、

彼女が語った

住所や夫の名前を調べてみると、

ムトラという街には、

確かに少女が語った

夫と同じ名前の男性が

今も住んでいて、



彼女が語った前世の記憶と

まったく同じだった。

なぜこの少女は、

そんなことまで

知っているんだ……。

こうした前世の記憶は、

大人になって

自我が芽生えていくと、

次第に忘れていくという。

実はすでに

科学や数学の世界では、

「縦、横、高さ」といった

3つの軸から成り立つ、

この三次元世界を包み込むように

それは結局、

「霊界がある」

ということを意味する。

実はすでに

科学や数学の世界では、

「縦、横、高さ」といった

3つの軸から成り立つ、

この三次元世界を包み込むように

四次元以降の高次元世界が

存在している」

と言われている。



アニメ『ドラえもん』では、
「四次元ポケット」とか、
「どこでもドア」とか、
「タイムマシン」とか、

時空間の軸を飛び越える道具が、
いろいろと登場するために、
割と日本人は、
高次元世界について理解が深い。



マサチューセッツ工科大学の
リサ・ランドールという
女性理論物理学者は、

まるで幽霊のように、
この世界から姿を消して、
再びこの世界に
姿を現す素粒子が
存在している矛盾にぶつかった。

A vibrant cosmic scene featuring a central bright yellow and orange energy source. From this source, colorful streams of light in shades of blue, purple, and orange flow outwards, resembling a complex energy field or a stylized representation of matter and energy. The background is a dark space filled with stars, galaxies, and various geometric shapes like spheres and cubes, some of which are surrounded by glowing halos or rings.


「質量保存の法則」

というものがあって、

もしも質量が消えるならば、

何らかのエネルギーに

変換されたはずである。

A dramatic illustration of a nuclear explosion. At the center, a glowing yellow and orange mushroom cloud billows upwards. In the foreground, a silver Japanese 1-yen coin is positioned directly in front of the base of the explosion, appearing to be the source of the energy. The background is a dark space with stars and galaxies. The equation $E = mc^2$ is written in a glowing font across the bottom of the image.

実は広島や長崎や長崎に
落とされた原爆も


1円玉一個(1g)

くらいの質量が

エネルギーに変わった

と言われている。

$$E = mc^2$$



つまり素粒子が消えたり、
現れたりするということは、

「質量保存の法則」から考えると、
明らかに説明がつかないのだ。



そのために

彼女は研究の結果、
理論上、高次元世界の
存在を実証してみた。

私たちはその世界に行けないが、
確実に四次元以降の高次元世界は、
この三次元世界を
包み込むように存在している。



実のところ世の中には
「悪魔と対話した」
という人もいれば



「殺せ」という悪霊のささやきに
悩まされている人もいれば、



その声に従って、
実際に殺してしまう人もいる。

どこからともなく声が聞こえて、
多分、あれは神様の声だ・・・



逆に「死ね」という
悪魔のささやきを
聴いてしまう人だっている。



ヘビー級ボクサーの
ジョージ・フォアマンは
モハメド・アリとの
試合に敗れた。



それからしばらくして、
フォアマンは控室で、
「神の声」を聞いて、
これを機に牧師となった、
と言われている。



牧師になった彼は、

二度とリングに

上がるつもりはなかった。

しかし教会併設の

青少年向けスポーツ施設が

資金難に陥ると



金策のために彼は、

勇気をもって

再びリングに上がる決意をした。

引退から10年で丸々と太り、

誰もが無謀だと思った。



しかし彼は、

無敗の王者モローラーに

逆転KO勝ちし、

45歳で王座に返り咲くと、



彼はコーナーポストの前に
ひざまずき、

静かに神に祈りをささげた。



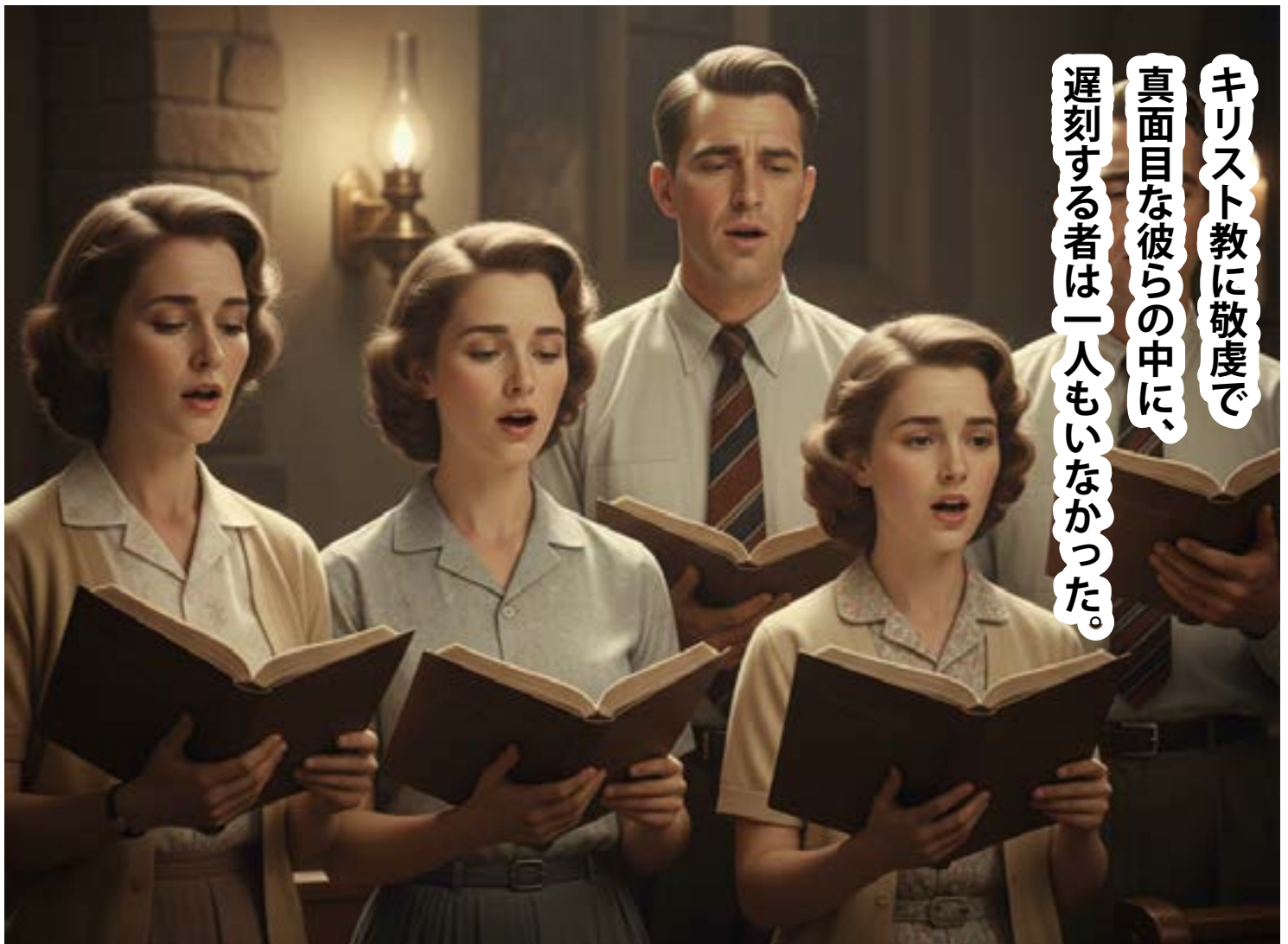
このように悪霊の声を聴いて、
犯罪や自殺する人が一方で、

天使の声を聴いたり、
あるいは直接、
言葉は聞かずとも、
インスピレーションを
受けることもある。



たとえばミネブラスカ州にある、
ウエストエンド・バプテスト教会では、

合唱団員15人は毎週水曜日に、
午後7時25分に集まり練習していた。



キリスト教に敬虔で
真面目な彼らの中に、
遅刻する者は一人もいなかった。



1950年3月1日の夕方、
クレンペル牧師はいつものように、

合唱団員たちのために
暖炉に火を入れて、
近くの自宅へと戻った。



しかしこの日、
教会の建物内で
ガス漏れが発生し、
ガスが建物を満たしていた。



そして7時27分、
建物内に溜まったガスが
暖炉の火に引火して
大爆発が起きた。



教会の壁は砕けちり、
重い天井は一直線に落下、
建物は全壊して炎に包まれ、
一帯は騒然となった。

みんな死んでしまった。



牧師が涙にくれていると、
教会に1人、また1人と、
聖歌隊のメンバーがやって来た。



確認してみると、
いつもは遅刻しない彼らが、

その日だけ遅刻して、
メンバー全員が無事であった



ある男性は

重要な手紙を書き、

時間がかかり、

やむなく遅刻を覚悟した。



ある女性

は数学の宿題に

取り組んでいて、

没頭しているうちに
出発時間が過ぎてま



ある姉妹は、

出発時間に車に乗り込んだが、

なぜかエンジンがかからなかった



普段は遅刻しない15人

全員が助かる確率は

10億分の1だという。

この出来事は

「ネブラスカの奇跡」

と言われている。



「ネブラスカの奇跡」は、

クリスチャンたちの信仰が

起こしたものであるが、

おそらくその背後で、

必死に天使たちが、

働いていたのだろう。



さて、
こうしたことを
踏まえて、

元悪魔崇拝者
ジョン・ラミレスに、
話を戻したい。



ジョン・ラミレスは、
テレビのインタビューで
こう語った。



サタンは人の形で現れ、
僕の家に来ると
部屋の空気が変わり
存在を感じました。

私はサタンに
魂を売ったのです。
サタンが僕と
話したがるため、
一晩中对談しました。



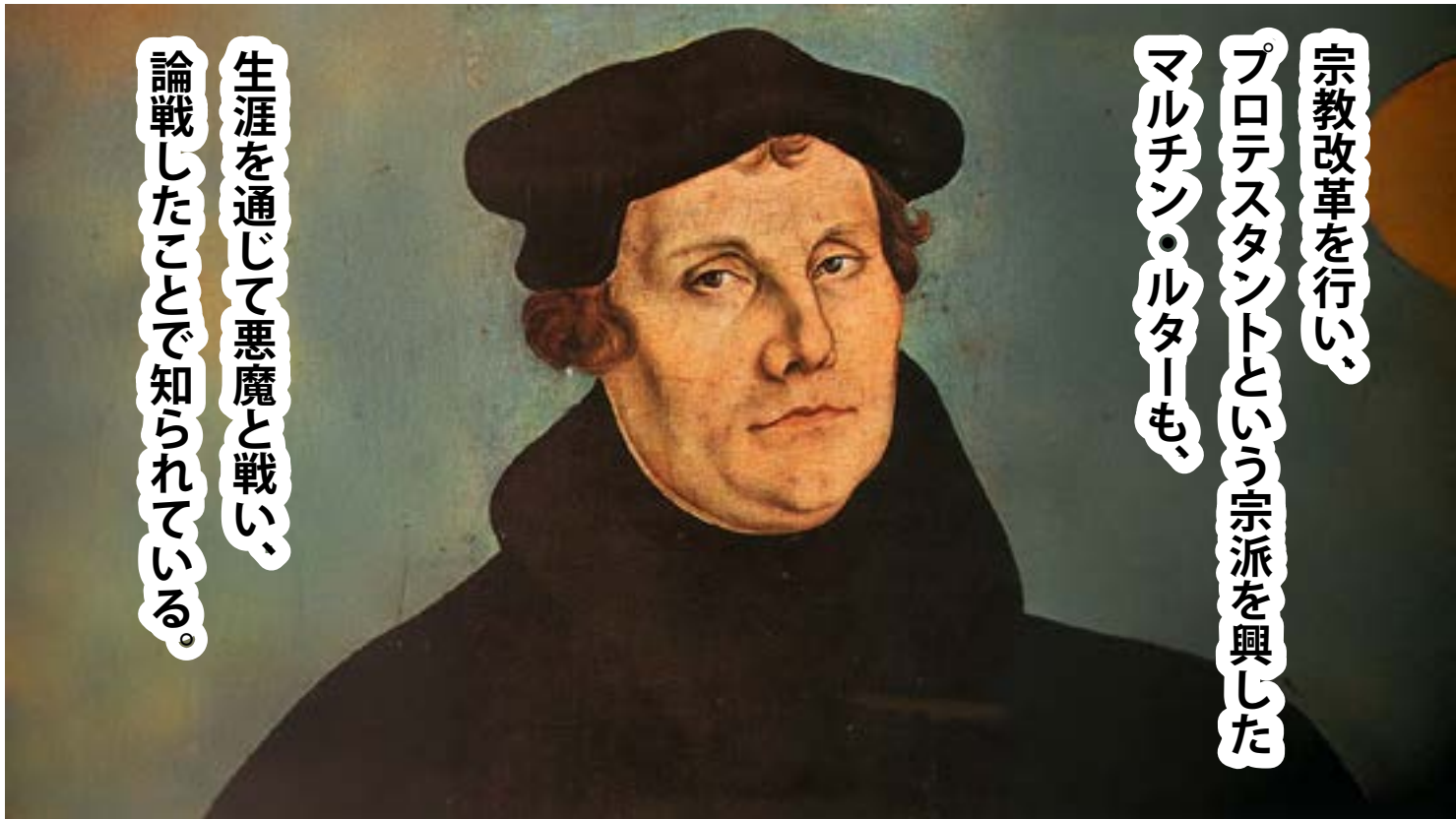
ジョン・ラミレスは、
こう質問された。

霊界では
何が起きているのか？



すると彼はこう即答した。

WAR (戦争)



宗教改革を行い、
プロテスタントという宗派を興した
マルチン・ルターも、

生涯を通じて悪魔と戦い、
論戦したことで知られている。



ルターが聖書を翻訳していると、
悪魔は邪魔しに来たという。

お前は大罪人だ！

もっと目新しことを
言えないのか！
この脳無しのサタンめ！



怒ったルターが
悪魔にインク壺を投げて
そのインクの跡が
壁の染みとして残った。



悪魔と語り合った
ということでは
成功哲学をまとめた
ナポレオン・ヒルが有名だ。



ナポレオン・ヒルは
その悪魔とのやり取りを
書物にまとめて、
出版しようとした。




すると家族から猛反対され、
その書籍は
販売されることはなかった。


しかし2013年、
約八十年の歳月を越えて、
その書籍はようやく出版された。



悪魔は傲慢不遜な態度を取り
ながら、人間の「意識」を、
どのようにコントロールして
いくか、狡猾な手口を語った。



我々は人の意見や周囲に
「流される人間」を好む。
自分の意志を持って
「考える人間」は嫌いだ。



我々は「恐怖」を
武器に使い、
その最大の武器は
「死」と「貧困」である。

すでに述べたように、
真の侍とは、
天下国家のためならば、
貧困どころか



命も名もいらす、
死すら恐れな、





始末に困る人であるから、

実は悪魔が

最も嫌うタイプ、

それが武士道を歩んだ、
侍なのである。



侍さえいなければ
我々の勝利だ！

だから悪魔どもは、

自分たちを崇拜する者たち使って、

武士道を解体したのだから。